



トップコミットメントを得るためには

社内の CSR の推進にはトップダウン、ボトムアップの双方が求められるが、企業トップ・取締役のコミットメントなしには CSR の推進は難しい。多くの企業の CSR 担当部門がトップ・取締役レベルに CSR の重要性を理解してもらうのに苦労している。

CSR は、企業にとって重要なリスクと機会を表している。取締役が CSR を理解し、促進する必要があるのは、次の企業活動に重要な事項に関連しているからである。

CSR は、①企業戦略とビジョンに大きく影響を与え、さらなる強化ができる、②取締役レベルの監視と説明責任を必要とする、③リスク認識とリスクマネジメントに影響を及ぼす、④取締役会の構成とそれぞれの専門性を必要とする、5. ステークホルダーへの適切な情報開示を実現する。

CSR 担当部門は企業トップ・取締役に上記の重要性を理解してもらう勉強の機会を設け、そして CSR 推進の為に CSR ガバナンスの構築の重要性を訴え、コミットメントを得る必要がある。

CSR への理解を得られる仕組みづくりが重要

取締役会が、CSR を理解し、取り組みを開始するにあたって、カナダ産業省は次のような「良い CSR ガバナンスへ向けたロードマップ」を提唱している。

企業トップ・取締役会は、CSR ガバナンスを委任するにあたり、現在の CSR 関連のガバナンスを見直し、企業の CSR ガバナンスの取り組みが、ベストプラクティスと比較してどのレベルにいるのかを理解することから始める必要がある。その上で、ロードマップを実践していく。ロードマップの順番は、CSR ガバナンスを見直した評価結果と取締役の優先順位に基づいて変化するが、その行動内容は一般的に次の 2 つに振り分けられる。

【フェーズ 1 (ファーストステップ)】

- ・ 取締役自身が自社のミッションや企業価値、方針に CSR を組み込む
- ・ CSR に関する責任を CSR 委員会に委任する
- ・ 取締役の CSR に関するコミットメントを企業内、そして、ステークホルダーに伝える
- ・ CSR のリスクと機会について継続して取締役レベルに教育する

- ・ CSR 戦略とリスクマネジメントに関する監視を実施する
- ・ 主要な意思決定に CSR を反映させる
- ・ ステークホルダーに対する CSR パフォーマンスの情報開示を再検討する

【フェーズ 2 (更なるレベルアップ)】

- ・ 効果的な CSR マネジメントシステムを確立する
 - ・ 取締役会がステークホルダーの生の声を聴くことができる公な仕組みを構築する
 - ・ 企業トップ・取締役の雇用に CSR 要因を組み込む
 - ・ CSR パフォーマンスについての取締役報酬を導入する
 - ・ 取締役としての活動が CSR に沿っているかを確認するイニシアチブを導入する
 - ・ CSR ガバナンスを継続して改善していく為に取締役の年次評価に CSR を組み込む
- アライアンス・ブーツ (本社・スイス) の CSR グループヘッドであるリチャード・エリス氏は、「10 年前は、取締役からの理解を得るために何かしたくても、取締役会の議事の最後に回され、議論の時間はほとんどなかった。取締役の企業責任 (CR) 委員会の設立後は、取締役会で、年 4 回、1 回につき 3 時間の時間を得ることができている。CR 委員会が機能していることで、我々が直面するサステナビリティの課題について議論が可能になった」と話している。

マークス&スパンサー (M&S) のサステナビリティマネージャーであるローランド・ヒル氏は「取締役に対しての教育は外部の CSR・サステナビリティの有識者を講師に迎え、取締役レベルの人々にさらに理解を深めてもらっている」と言う。

M&S のすべての取締役・幹部には、同社の CSR に関するコミットメント「プラン A」のターゲットそれぞれに責任が振り分けられており、個人の業績評価と収入に結び付いている。「プラン A」のコミットメントの進捗状況は、毎月確認され、取締役と監査委員会に半年ごとに報告されることとなっている。

戦略的 CSR の推進には、企業トップ・取締役の役割は非常に重要であり、トップダウンなしには成し得ない。上記のロードマップや事例を参考に、是非社内での体制を整備して実現してほしい。



サステナビリティ (CSR) プラクティショナー資格講習

第7回目

開催決定！
開催地：東京

気候変動や環境問題、サプライチェーン、ビジネスと人権に関する取組、ISO26000 の発行、統合報告への流れ、欧州における非財務情報開示の法制化の動きなど、国際情勢が移り変わる中で、今 CSR の重要性が高まっています。

本資格講習は、ロンドン在住 CSR コンサルタントが講師として、欧州先進企業の CSR の最新情報やビジネスのケースをお伝えしながら、CSR を戦略的に実施する方法、事業に統合する方法を学んでいただくことを目的としています。また本資格講習は、英国の主要団体 IEMA の公認資格であり、世界 5 大陸 28 か国から約 500 人の資格保持者がいる、世界に通用する CSR 資格です。この資格の取得により世界との扉を是非開いてください。

資格講習受講者の声

- 受講前に期待したことは全て満足でした。①これまで CSR を担当してきた業務対応が外部の観点から見て正しかったか。②CSR の総括した講習を受けたかったこと。③異業種の方々の CSR 取組みスタンスを知りたかったこと。(コニカミノルタホールディングス株式会社 前 CSR 推進部部长)
- 幅広い知識や視点をあらためて学ぶことができ良かった。参加企業の他社での取組みやリアルな話を聞くことができ非常に参考になった。グローバルでの動向も学べたのがよかった。(サントリーホールディングス株式会社 CSR 推進部)
- ケーススタディでより理解が深まりました。情報量が多かったですが、1つのモジュールの構成が理解しやすかったと思いました。包括的・体系的に学べたので(基本的な情報から)、CSR 初心者私のにも理解でき、興味が深まるとともに、将来の分野についても特定できそうです。(ME & Associates Ltd, Regional facilities manager (香港))

レクチャーとグループワークが バランスよく織り交ぜられた 2日間の集中プログラム

- CSR と気候変動に関する世界の関連法規
- ステークホルダーの特定とアプローチ
- サプライチェーンの持続可能性
- グリーン&コーズマーケティング、
- CSR を事業へ統合する方法
- カーボンフットプリント戦略と
ライフサイクルアセスメント
- CSR 世界基準・ガイドラインと
CSR 報告書の作成

参加対象者

- 企業代表者、CSR・環境担当部長
- CSR・環境マネジメント担当部門
- 人材開発担当部門・購買部門
- マーケティング担当部門
- PR・広報宣伝・IR 担当部門

※各企業様・団体様向けに個別に英国 IEMA 認定サステナビリティ (CSR) プラクティショナー資格講習を開催することは可能です。都度お見積りさせていただきますので詳細についてはお問合せください。

◆ 日程 ◆ **2013年 10月 24日(木)・25日(金)** ◆ 場所 ◆ **東京** ◆ 定員 ◆ **15名**

定員になり次第締め切りとさせていただきます。



講師 サステナビジョン
下田屋 毅



ゲスト CSE
ニコス・アヴロナス

サステナビジョンは、英国の主要団体 IEMA 公認トレーニング団体である Centre for Sustainability and Excellence (CSE) と戦略的パートナーシップを締結。英国 IEMA 公認資格である「サステナビリティ (CSR) プラクティショナー資格講習」を 2012 年より日本で開催しています。

お問い合わせ・申し込みはウェブサイトから — www.sustainavisionltd.com



サステナビジョン

在英日本商工会議所会員企業

E-mail : infojp@sustainavisionltd.com

オルタナ割引 15%

※「altcsr09」とお申し込み
の際にご記入ください。